

祝！60周年

製品ストーリー

スチューダー社は2008年、創立60周年を迎えました。その輝かしい製品ストーリーを駆け足でご紹介します。



Willi Studer



1948

1948年1月5日、スイス・チューリッヒにてスチューダー社設立。ウィリ・スチューダー氏の他にスタッフはわずか3名で、オシロスコープを製作。

1949

ウィリ・スチューダーは彼の最初のテープレコーダを開発、「ダイナボックス」と名付けて販売。

1951

民生向けブランド名を「ルボックス」とし「ルボックス T26」を発売。また最初のプロフェッショナル・テープレコーダー、スチューダー27のプロトタイプを製作、スイスラジオにより「ルツェルン国際音楽祭」の収録に使用される。

1952

スチューダー27発売開始。社員は32名に。

1955

新開発のテープレコーダー、スチューダーA37、B37を発売。

1957

数千台のテープレコーダーを製造し、国際的なセールスネットワークの構築を始める。最初のポータブル・テープレコーダーB30を発売。

1958

最初のミキシングコンソール、ポータブルタイプの069を製作。

1960

スチューダーC37を発売。

1963

初のフルトランジスタ回路採用のスチューダーA62を発売。

1964

C37をベースに伝説的な4トラック・テープレコーダー、スチューダーJ37を開発。

1967

アビーロード・スタジオが2台のJ37を採用。ザ・ビートルズがそのJ37でアルバム「サージェント・ペパーズ・ロンリー・ハーツ・クラブ・バンド」を録音。

1968

スタジオ向け音声卓、スチューダー089を発売。スチューダー社の社員は560名に。

1970

新世代のプロフェッショナル・スタジオ・テープレコーダーA80を発売。まったく新しい斬新なデザインコンセプトは、カセット・デュプリケータ用の1/8"QCから2" 24トラックまでの幅広いバリエーションを可能にしていた。また、頑強なテープ・トランスポート・メカニズム、そしてそれに組み合わせられるテープ・テンションの電子制御、ロジック・コントロールの秀逸さ、プラグイン式のアンプ・モジュール、独立したイコライザー部等、様々な特色を備えていた。

1972

それまでで最も大規模なミキシングコンソール、289をスイスの放送局SRGに納品。

1973

初のシンセサイザー・チューナーA720を発売。

1975

スチューダー社の社員が1,495名となる。

1978

新開発マルチチャンネル・テープレコーダーA800を発売。ウィリ・スチューダー氏がチューリッヒ工科大学から名誉博士号を授与される。

1980

SONY社とPCMフォーマットの標準規格化のために協力。

1982

大型ミキシングコンソール900シリーズを発表。日本の正規輸入代理店としてスチューダー・ルボックス・ジャパン（株）が設立される。

1983

最初のデジタル製品、サンプリング周波数コンバータSFC-16を発売。また、DASHフォーマットの標準化に強く関与する。

1985

アナログ・テープレコーダーA820、CDプレーヤーA725、そしてポータブル・ミキシングコンソールの傑作、961/962シリーズを発売。

1986

スチューダー・ルボックス・グループは、子会社を含めて総勢1,882名となった。



T26



27



069



69



B62



J37

1989

48トラックDASHフォーマットのデジタル・マルチテープレコーダーD820を発売。
アメリカのインテグレイテッド・メディア・システムズ社を買収し、スチューダー・エディテックを創設。すぐに当時としては画期的なDAW、ダイアクシス・シリーズを発売。
ウィリ・スチューダー氏は引退の意向を明らかにし、様々な会社スチューダー・ルボックス・グループの買収に興味を示す。

1990

ウィリ・スチューダー氏、スチューダー・ルボックス・グループを子会社とともにモーター・コロムバス社に売却。

1991

フランスのデジテックSA社を買収、CAB（自動送出装置）やデジタル・ルーティング関連のDS-Dシリーズを発売。
モーター・コロムバス社はスチューダー・ルボックス・グループを、スチューダー（プロ）、ルボックス（ハイファイ）、そして製造部門に分割し、子会社や工場等も売却した。

1993

新型DASHレコーダーD827を発売。
初めてのデジタル・ミキシングコンソールD940をWDRケルンに納入。

1994

大規模な再編成の末、スチューダー・グループはハーマン・インターナショナル社の傘下となる。スチューダー・ルボックス・ジャパン（株）はスチューダー・ジャパン（株）に社名変更。

1995

スイス国営放送DRSチューリッヒが、D941デジタル・コンソールとMADIルーターで構成された初のフルデジタルシステムによる放送を開始。D424 MOレコーダー、D19MicADを発売。

1996

3月1日、ウィリ・スチューダー氏死去。
On-Air 2000デジタル・ミキシングコンソール、928アナログ・ミキシングコンソール、D741 CDレコーダー、D19MicValve、そしてD19MultiDACを発売。

1997

第2世代の新型デジタル・ミキシングコンソールD950を発売。デジタル・ルーティング関連製品D19mシリーズを発売。

1998

D950はサラウンド対応のD950Sとなり、革新的な「バーチャル・サラウンド・パンニング」を搭載した。

1999

D950のコア・テクノロジーとD941のデスク・サーフェイスを融合させたOn-Air 5000を発売。

2000

新しいデスク・サーフェイスと数々の機能を追加したD950M2を発売。On-Air 1000を発売。

2001

600台以上を出荷したOn-Air 2000がOn-Air 2000M2に進化。

2002

ラスベガスのNABにて、ポストプロダクション・スタジオ向けのVista 7をお披露目。核となるVistonics（ビストニクス）画面のタッチアンドアクション・コンセプトは、6年後の現時点においてもなお最も優れたユーザー・インターフェイスである。半年後、アムステルダムIBCにて放送スタジオ向けのVista 6を発表。また同時にOn-Air 2000M2 Moduloも発売。

2003

On-Air 3000とOn-Air 500を発売。On-Air 3000は新しいDSPコア技術をベースとしたSCore（エスコア）を中心に構成される。

2004

Vista 8を発売。今や世界の放送局向けコンソールのデファクト・スタンダードとなっている。

2006

Vista 5を発売。コンパクトなデスクは可搬性にも優れ、セットアップも極めて容易である。

2007

アリーナ級ツアーのSR用途にも耐えうる堅牢なデスクのVista 5 SRを発売。

2008

大ヒット作On-Air 2000/1000の後継機種、On-Air 2500を発売。スチューダー・ジャパン・ブロードキャスト（株）設立。



■ A80



■ A800



■ 961/962



■ D827



■ 928



■ On-Air 2000



■ D950



■ D950M2



■ Vista 7



■ Vista 5 SR



■ On-Air 2500